様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年　6 月 15 日現在

機関番号：32690
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22520054
研究課題名（和文）『八千頌般若経』の総合的研究――漢訳古訳とガンダーラ語写本の比較研究を中心として
研究課題名（英文）A Comprehensive Study of the *Astasahasrika Prajnaparamita* ――Focusing on Comparison between the Early Chinese Translations and Gandhari Manuscripts
研究代表者
辛嶋　静志（KARASHIMA SEISHI）
創価大学・国際仏教学高等研究所・教授
研究者番号：80221894

研究成果の概要（和文）：
近年パキスタンで紀元後一世紀に遡る《八千頌般若》ガンダーラ語写本が発見された。この写本と最古の漢訳大乗経典である支婁迦讖訳『道行般若経』(紀元後 179 年訳出)との比較研究を行った。Harry Falk 教授と共同でガンダーラ語写本転写と『道行般若経』英訳を並べて出版した。また『道行般若經校注』を出版した。『道行般若経』の原語がガンダーラ語であること、さらに《般若経》はガンダーラ地方でガンダーラ語で創られたということを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
Not long ago, a fragmentary manuscript of a Gandhari version of the *Astasahasrika Prajnaparamita*, probably dating back to the first century C.E., was discovered in Pakistan. In this research, the present author has compared this with the *Daoxing Banre jing* 道行般若經, the oldest Chinese translation of the same scripture, translated by Lokaksema in 179 C.E. and together with Prof. Harry Falk, has published articles consisting of a transliteration of the Gandhari manuscript along with a English translation of the oldest Chinese version. He has also published a critical edition of the *Daoxing Banre jing* as well as several other articles, one of which demonstrates that the original language of the Chinese translation was Gandhari and that the Prajnaparamita text was originally compiled in Gandhara in that language

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学
キーワード：ガンダーラ語、仏教漢文、中古漢語、般若経、八千頌般若、支婁迦讖、支謙、道行般若経

１．研究開始当初の背景

近年パキスタンの北西部アフガニスタンとの国境地帯にあるバジョール地方の僧院跡から、樺皮にカローシュティー文字で書かれた、

それぞれ異なる内容の19巻の仏教写本が発見された。これら写本は書体から見て紀元後一、二世紀に遡ると考えられ、また《中阿含経》、《戒本》のほか、声聞乗・独覚乗・等正覚乗と阿閦如来に言及する経典、般若(pranaparamida)に言及する経典がある。これとは別に、最近パキスタンとアフガニスタンとの国境地帯で、放射性炭素年代測定法で81.1％の可能性で紀元後47-147年に遡ると思われる《八千頌般若》のガンダーラ語写本が発見された。このガンダーラ語大乗仏典写本は最古の漢訳大乗経典である支婁迦讖訳『道行般若経』(A.D.179年訳出)の原本と同時代のものと言える。これらの発見によって、初期大乗仏典研究は全く新しい局面を迎えた。憶測、類推(speculation)、仮説に基づく大乗仏教成立研究にとりあえず終止符を打ち、これら新出ガンダーラ語写本および古訳経典の文献学的研究が喫緊の課題となった。

そこで、著者は、新古の資料に基づく新しい仏教文献学の第一歩として、新発見《八千頌般若》ガンダーラ語写本と支婁迦讖訳『道行般若経』の比較研究を遂行した。

２．研究の目的

紀元後一世紀に遡るガンダーラ語写本の発見は、漢訳古訳の持つ意義に新しい光を照らした――ガンダーラ語写本は概して支婁迦讖訳・支謙訳に一致するのである。これら『八千頌般若経』最初期のテキスト群の比較研究によって、従来の梵本・鳩摩羅什訳を中心としてなされて来た研究では遡れなかった最古の般若思想、生まれたばかりの般若経の姿を、目の前に生き生きと提示することを目的とした。

３．研究の方法

新古の資料に基づく新しい仏教文献学の第一歩として、新発見《八千頌般若》ガンダーラ語写本と支婁迦讖訳『道行般若経』の比較研究を遂行した。その方法として、次の二つの計画を立てた。

（１）『道行般若経校注』作成：難解な支婁迦讖訳『道行般若経』（西暦 179 年訳）の詳細な校注本を作成する。

（２）ガンダーラ語『八千頌般若経』写本断簡と『道行般若経』との対照：ガンダーラ語写本研究の専門家であるベルリン自由大学の Falk 教授と共同で、パキスタンで新しく発見された紀元後一世紀に遡ると推定されるガンダーラ語『八千頌般若経』写本の校訂本と漢訳古訳との対照本を作成する。

この二つの計画を達成のために、支婁迦讖訳『道行般若経』および『八千頌般若経』に関連する諸文献を集め；仏教梵語を中心とするインド学の書籍、仏教学関連の書籍、漢語史関係を主とする中国学の書籍を購入し；データを迅速に処理するために、コンピュータを購入し；また留学生若干名に、ガンダーラ語・仏教漢語のデータベースの構築を手伝ってもらった。さらに研究成果を国内外の研究雑誌で発表した。

４．研究成果

この研究の成果としては次の三つがある。そのうち、（１）と（２）はすでに出版し、（３）は来年度あるいは再来年度の出版を目指している。

（１）『道行般若経校注』作成

筆者は、すでに 2010 年 3 月に八百頁に及ぶ『道行般若經詞典』を出版したが（*A Glossary of Lokaksema's Translation of the Astasahasrika Prajnaparamita* 道行般若經詞典, Tokyo 2010: 創価大学・国際仏教学高等研究所)、それに引き続き、2011 年 3 月に『道行般若經校注』(*A Critical Edition of Lokaksema's Translation of the Astasahasrika Prajnaparamita* 道行般若經校注, Tokyo 2011: 同, xxxvi + 550 頁)を出版した。そこでは『大正蔵』所収の『道行般若経』を『高麗蔵』・『金蔵』・『房山石経』・各種宋版・敦煌出土本・日本古写経などと照合して新しいテキストを作成した。この校注では、写本・版本の異読の他、六種の漢訳異訳・梵本・蔵訳との異同を詳細に記し、《八千頌般若》における増広・削減・変化・改訂の跡付けを試みた。

この校注作成を通して、いくつもの発見があった。そのうちの重要なものを幾つかあげれば次のとおりである。

① 概して、古いバージョン(すなわち、ガンダーラ語写本・支婁迦讖訳・支謙訳・竺佛念訳・鳩摩羅什訳・玄奘訳第五会）は新しいバージョン（すなわち、玄奘訳第四会・施護訳・梵本・チベット語訳）に比べると簡潔である。慈悲――Schmithausen, Fronsdal, Choong, Analayo などが明らかにしたように空の思想とは矛盾するものである――に関する記述は、古訳（支婁迦讖訳・支謙訳・竺佛念訳）に概して欠けるのに対して、後のものほど詳しくなる。

② 逆に、常啼菩薩の物語は支婁迦讖訳『道行般若経』とその改訂版の支謙訳では、後のバージョンに比べると遙かに詳しく、またテーマも異なる。

③『道行般若経』など古訳やガンダーラ語写本に比べて、羅什以降の漢訳および梵本・蔵訳は、本来の《八千頌般若》とは量的のみならず、質的に

も変化している。

④ 支謙訳『大明度経』と竺佛念訳『摩訶般若鈔経』は、直訳で晦渋な支婁迦讖訳『道行般若経』を漢語として読みやすくした“焼き直し”に他ならない。

（２）ガンダーラ語『八千頌般若経』写本断簡と『道行般若経』との対照

ベルリン自由大学の Harry Falk 教授と筆者と共同で、上記の新出のガンダーラ語写本断簡を研究し、ガンダーラ語断簡転写と支婁迦讖訳『道行般若経』英訳を並べて、『創価大学・国際仏教学高等研究所年報』第 15 号(2012)と第 16 号(2013)に発表した。

この断簡（本来は五メートル近くの長いものであったと考えられる）の表側(recto)は、『道行般若経』の第一巻の冒頭（T.8, 425c4-426c10)に、裏面(verso)は、第二巻の終わり(436c17-438a7)に対応している。概してガンダーラ語断簡の方が簡潔だが、ガンダーラ語断簡にあって漢訳にないものもある。従って、この二つのテキストは一致してはいないが、それでも驚くほど近似している。思想史研究上、特に注目すべきことは、この二つのテキストには、梵本や他の諸漢訳（『大明度経』を含む）及び蔵本に見える *prakrtis cittasya prabhasvara*（「心の本性は輝いている」）という「自性清浄心」(*prakrti-prabhasvara-citta*)を意味する表現が欠けているという点である。

また、このガンダーラ語写本と古訳の比較研究によって、支婁迦讖訳『道行般若経』が、ガンダーラ語写本に非常に近いこと、またその原語がガンダーラ語であることがわかった。さらに《八千頌般若経》のテキスト自体にも、それがガンダーラ地方で成立したことを示している記述がある。これらのことから「《般若経》はガンダーラ地方でガンダーラ語で創られた」という英文論文を発表した。

（３）『大明度無極経校注』と『《般若経》漢梵蔵対照』作成

支謙訳『大明度無極経』（西暦 222-257 年訳）の校注本（約 500 頁）ならびに漢訳七種（支婁迦讖訳・支謙訳・竺仏念訳・鳩摩羅什訳・玄奘訳二種・施護訳）と梵本・蔵訳・梵本英訳を対照した『《般若経》漢梵蔵対照』（3500 頁以上）を作成した。それぞれ八十パーセントほど出来上がっており、数年内に完成して出版するつもりである。これらの作業を通じて、支謙訳・竺仏念訳は支婁迦讖訳『道行般若経』の“焼き直し”であることが、明らかになった。漢語の歴史研究という視点からみると、この“焼き直し”は、漢語の変遷に関する貴重な材料である。支謙や竺仏念がどのように支婁迦讖訳を書き改めたかに注目すれば、後漢から晋代にいたるまでの言語の変遷を見ることができる。この視点から、英語・中国語・日本語で幾つかの論文を執筆した。

紀元後一世紀に遡るガンダーラ語写本の発見は、漢訳古訳の持つ意義に新しい光を照らし、私たちが今まで懐いていた初期大乗仏教のイメージを大きく変えた。何よりもまず、大乗仏典が最初はガンダーラ語で伝えられていて、それが後に梵語に“翻訳”されたということが、ガンダーラ語と支婁迦讖訳から確かめられたことは大きい。ガンダーラ語から梵語に翻訳される時、当然、内容の変質が生じた可能性が考えられる。筆者は引き続き、従来の梵本・鳩摩羅什訳などを中心としてなされて来た研究では遡れなかった最古の大乗思想、生まれたばかりの大乗の姿を、古訳とガンダーラ語写本の正確な読解を通して、目の前に生き生きと提示したいと思う。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

① 辛嶋静志、「早期漢譯佛典的語言研究——以支婁迦讖及支謙的譯經對比爲中心」浙江大学漢語史研究中心編『漢語史學報』第十輯，上海教育出版社，2010，pp. 225-237 （査読有）

② 辛嶋静志、「利用「翻版」研究中古漢語演變：以《道行般若經》「異譯」與《九色鹿經》為例」『中正大學中文學術年刊』第十八期，2011，pp. 165-188.（査読有）

③ 辛嶋静志、“A first-century *Prajnaparamita* manuscript from Gandhara - *parivarta* 1 (Text from the Split Collection 1)”, by Harry Falk and Seishi Karashima, in: *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University*, vol. XV, 2012, pp. 19-61 + plates 5-7. （査読無）

④ 辛嶋静志、“A first-century *Prajnaparamita* manuscript from Gandhara - *parivarta* 5 (Text from the Split Collection 2)”, by Harry Falk and Seishi Karashima, in: *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University*, vol. XVI, 2013, pp. 97-169 + plates 52-53 （査読無）

⑤ 辛嶋静志、“Was the *Astasahasrika Prajnaparamita* Compiled in Gandhara in Gandhari?” 同上，pp.171-188.（査読無）

⑥ 辛嶋静志、“On the ″Missing″ Portion in the *Astasahasrika Prajnaparamita*”，同上 pp.189-192.（査読無）

⑦ 辛嶋静志、“A Study of the Language of Early Chinese Buddhist Translations: A Comparison between the Translations by Lokaksema and Zhi Qian”, 同上, pp.273-288. (査読無)

〔学会発表〕(計４件)

① 辛嶋静志、“A Study of the Language of the Early Chinese Buddhist Translations: Comparison between the translations by Lokaksema and those by Zhi Qian”、高麗大蔵経研究所主催「大蔵経：高麗大蔵経千周年記念シンポジウム」(Daejanggyeong: A Millennium Commemoration of the Tripitaka Koreana in 2011)、2011 年 6 月 27 日-29 日、韓国・大邱

② 辛嶋静志、“Nouvelles recherches sur manuscrits sanscrits bouddhiques provenant d'Asie Centrale”、招聘講演、2012 年 5 月 4 日、フランス学士院・碑文・文芸アカデミー(http://www.aibl.fr/seances-et-manifestations/les-seances-du-vendredi/seances-2012/mai-2012/article/seance-du-4-mai-2012?lang=fr に録音が公開されている)、フランス・パリ

③ 辛嶋静志、「言葉の向こうに開ける仏教の原風景――経文に見える浄土、阿弥陀、観音、一闡提、大乗の本当の意味――」、一般講演（光華女子大学真宗文化研究所第 42 回光華講座）、2012 年 5 月 26 日、京都・光華女子大学

④ 辛嶋静志、「阿弥陀・観音・般若経―大乗仏教とガンダーラ」、科研「ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究」主催の国内シンポジウム「美術と文献から見るガンダーラの仏教」、2012 年 7 月 15 日、京都・龍谷大学

〔図書〕(計１件)

① 辛嶋静志、*A Critical Edition of Lokaksema's Translation of the Astasahasrika Prajnaparamita* 道行般若經校注, Tokyo 2011: International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University (Bibliotheca Philologica et Philosophica Buddhica XII) xxxvi + 550 pages, ISBN978-4-904234-04-4.

〔その他〕

ホームページ等

http://iriab.soka.ac.jp/orc/Publications/ARIRIAB/index_ARIRIAB.html

http://iriab.soka.ac.jp/orc/Publications/BLSF/index_BLSF.html

http://iriab.soka.ac.jp/orc/Publications/BPPB/index_BPPB.html

６．研究組織

(1)研究代表者

辛嶋　静志 (KARASHIMA SEISHI)

創価大学・国際仏教学高等研究所・教授

研究者番号：80221894

(2)研究分担者

(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：